



孕



はらませエシじえるっ!





「はあっ、はあっ、潤たんのちっちゃな  
オマンコ気持ち良すぎて…たまらんっ」

「んっ、うっ、うっ…  
お…お願い…します…  
も…もう…っ、や…やめ…っ  
うっうっうっ…」

「っ、めんね潤たんっ  
でももうすぐだからっ  
もうちょっとだけ我慢してねっ」

「わ…や…っ、も…も…っ、す…っ…  
うっうっうっ…あ…っ…っ…」

「んっ、うっ、うっ…」

「んっ、うっ、うっ…」



「ああ、きたきたきた精液きたっ  
出る出るっ、潤たんの中に精液出るっ」

「で…で…？せ…せい…えき…？  
な…何を…  
あ…え…？な…何…これ…  
な…何か…入ってくる…っ！」

「ああ、潤たんの赤ちゃん部屋に  
精液ドバドバ出てるわ」

「や…やだやだ…っ！  
こ…こわい…っ、こわいよっ  
も…もっ…っ、や…やめ…っ  
あ…あ…っ、あああああ…っ！」

END

END

END



「ふう〜めっちゃ出たわ〜」

「あ……う……ぐ……ひぐ……っ」

「あつ……ごめんね潤たん  
気持ち良すぎてつい……っ」

「う……っ……も……もう……  
離して……ください……」

「っ、次は優しくするからねっ」

「……え……」













「オラオラどうだ  
初めてのチンポの味はよお!」

「うっ、ひびくっ、うんっ!  
は、離して、うって  
言ってる、でしよ、うっ  
け、警察、呼ぶわよ、うっ」

「ひははwこんなトコにサツが  
くるわけねーだるw  
いいから大人しく犯されてりや  
いいんだよオラオラっ!」

「~~~~~」



「あゝそろそろ出そうだわ〜」

「で…で…で…って…せ…精子…っ？  
だ…だめ…っ！出しちゃ駄目っ！  
赤ちゃん出来ちゃう！」

「あゝ無理無理もう止まらんって」

「せ…せめて外に…っ」

「あゝ」めんもっ出ちゃったわ  
おめっちゃ濃いのが出るわ出るわ」

「~~~~~」



「…う…そ…ホントに…  
な…中に…入って…」

「わりーわりーw  
まあ心配すんなってっ  
一回や二回の中出しで  
妊娠なんかしねえってw」

「…う…ひぐ…ぐす…っ  
…ほ…ほんと…?」

「まあ一回や二回で終わらない  
んですけどねw」

「…え…」



「あはっあっあっ  
やめやめああっ」

「おいおい最初の頃の  
威勢の良さはどいっただよw  
まだまだこれからなんだから  
もっ抵抗してみろやw」  
「あっあっあっ  
たっ助けっおにーちゃんっ」



「オラ10発目えっ!」

「あ...あ...あ...っ...」

「チツ、ノーリアクションかよ  
まあいいわ、正気に戻った時に  
絶望するくらいに精液まみれに  
してやるからよ  
金玉カラになるまで  
出しまくってやる!」

「...おにおに...いちや...ん...  
た...たすけ...っ...」

「ん...ん...」

「ん...ん...」

「ん...ん...」

「お」

「お」

「お」

「ん...ん...」

「ん...ん...」



「の、希美ちゃんっ、い、いくよっ  
ぬ…んんっ…」

「……………」

「い、痛いよねっ、」「めんっ  
でも俺、我慢出来なくてっ…」

「や…やめっ…それ以上は  
入らな…っ、うっうっうっうっ…」

あはっ!

あはっ!

あはっ!





「もっ、もう出るっつ!!」  
「ごめんね希美ちゃんっ、俺っももうっ」

「出るって...え...あ...え...?」  
「何っ、これっ!!」  
「希美の中に...熱いのが入ってっ!!」

「希美ちゃんごめんっ、射精っ  
全然止まらな...ぐうっ!!」

「い...いや...」  
「いやあああああああっ!!」

「Mmm...」  
「Mmm...」  
「Mmm...」







「はあつはあつ！  
希美ちゃんっ、希美ちゃんっ！」

「あ…はっ…ああつ…や…っ  
も…もっ…やめ…っ…  
ああああつ！」

「だ、駄目だよっ、もっともっと  
種付けしないと赤ちゃん  
作れないじゃないっ」

「…の…希美はまだ…っ、あ…っ…  
あ…赤ちゃん…なんで…っ  
あああああつ！」





「めっぺん、なつっ  
ちいせえマン」だなおい」  
「aaaaaaaaa.....」

「うたく、先っほしか入らねえし  
これじゃあオナホ以下だぞおい  
しっがり呑み込めやヨラッ」

「痛っっ  
それ以上はっ  
うんっっっ」

W!  
W!  
W!

W!  
W!  
W!

W!  
W!  
W!













「オラもう一発いくぞおいらー」

「あああ.....う.....」  
「あああ.....あ.....う.....」

「チッ、もっポンコツになりやがったか  
まあ初日じゃこんなもんか...?  
しやあねえあ何発かやったら  
休ませるかね」

「.....あ.....」

「Yw!」

「Yw!」

「Yw!」

「あ」

「あ」

「あ」







「はあっはあっ、流石潤たんっ  
あっという間にイカされちゃったw」

「は…っ、あ…っ、はあっ…  
い…いえ…わ…私も…そ…その…」

「潤たん、あのさ…」

「…はい…？」

「も、もう一回…」

「…はっ♡」

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ













「オラもう一発だっ！」

「……………あ……………あ……………」

「……………あ……………あ……………」

「……駄目だよイツ、完全にトんじまいやがった  
まともなら相当稼げたんだがなあ……」

「……………あ……………」

「はあ、じゃあねえ捨てるか……」

「そっぴやヨイン兄貴がいるっていつてたな……  
ぐむW兄貴の前にも捨ててみるかW」

「……………お……………」

「……………お……………」

「……………お……………」

「……………お……………」

「……………お……………」

「……………お……………」

「……………お……………」

「……………お……………」

「……………お……………」

「……………お……………」

「……………お……………」

「……………お……………」

「……………お……………」

「……………お……………」

「……………お……………」

「……………お……………」

「……………お……………」

「……………お……………」



「はあっ、はあっ、希美ちゃんっ  
希美ちゃんっ、すきっ、好きいっ!」

「んっ、ふっ、うっ、んっ  
な・何度もっ、いっ、言わないでっ!」

「っ、ごめん、でもっ  
ホントに好きだからっ!」

「わ、わかったからっ!っ  
は、はやくっ、おっ、終わらせいっ!」

N

N

N

BO!

BO!



「あつ、はっ、あああつー  
ば、ばかっ、ここんなつ  
多すぎー、ああああつー」

「わ、わかったから、はっ  
はやく出しなさい、あつー」

「出、出るっ、出るっ  
希美ちゃんっ」

Mmm

Mmm

Mmm

Yw!





「希美ちゃん、田中さん、  
せーっ田中さん」

「うんっ、うんっ♡ちよん♡ちよん♡  
希美に気持ちいいの全部ちよんっだわー」

「田中さん、田中さん」

「ま、またこんなにいっぱいっ♡  
ば、ばかばかり♡これじゃ希美またっ♡  
あっ、あっ、あああああっ♡」

あーっ

あーっ

あーっ

あーっ

あーっ





「そんなんだから出荷が  
遅れるんだっ  
特別に俺様が調教してやっから  
きっちり受け止めるよっ」

「aaaaaaaaa...」

「オラオラまだまだ  
止まらねえぞー」

「aa... aa... aa...」  
「aa... aa... aa...」

「Mmm...」



「お前は……あ……あ……」  
「お前は……あ……あ……」

「オラっ、休んでる暇はねえぞ  
どっかのポンコツの分も  
お前には稼いでもらうからな」

「……も……も……少……  
……き……休憩……させて……」

「駄目だっ、早くオラミン……」  
「お……」

おま

おま

おま

おま



